

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	23	学校名	静岡県立掛川特別支援学校	校長名	赤澤 智子
------	----	-----	--------------	-----	-------

校訓『元気 笑顔 夢の実現』

1 目指す学校像

(1) 教育目標 『いきいき学び 地域と共に よりよく生きる人を育てる』

いきいき学ぶ＝心身ともに健康で、楽しく主体的に学ぶこと

地域と共に ＝学校生活（学習面・生活面が充実し、人・もの・ことに関わること

よりよく生きる人＝日々の 学びを積み重ね、卒業後に自立した豊かな生活を送れるようにすること

目指す児童生徒の姿

主体的に学び、自分の良さを生かし、人や社会とつながりながらその能力や可能性を最大限に発揮して生活する姿

(2) 目標具現化の柱

ア【専門性】一人一人の教育的ニーズに応じ、確かな成長・発達を支える専門性の充実

イ【安全・安心】人権・個性を尊重し、安全・安心な教育環境、学校体制と教育の充実

ウ【連携】家庭や地域、関係機関等から信頼され共に歩む協働体制の充実

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）*「業務改善」についても記入する。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア 専 門 性	(ア) 学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通じた実践力と専門性のレベルアップ	自立活動の6区分等から実態把握し、個別の教育支援計画の根拠ある目標設定を反映させた個別の指導計画を作成し、適切な指導を元に目標を達成させる。	・「日々の児童生徒の評価を記録し、必要に合わせて指導方法を工夫しながら、個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できた」と答える教職員 100%	自立活動課 教務情報課 研修課 各学部
		学習指導要領の内容を踏まえた授業づくりや校内研修の中で、TT間での話し合いや授業アドバイザー、外部助言者からの助言を活かし、PDCAサイクルを用いた授業改善を図る。	・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100%	研修課 各学部 教務情報課
	(イ) 学校体制で取り組むカリキュラム・マネジメント 12年間の年間指導計画と「いきいき学び地域と共によりよく生きる人」を育てる授業づくりの推進	授業でのICT機器活用に関わる教職員研修の充実と実践を図る。	・「児童生徒がICT機器を活用した」と答える教職員 100%	
		12年間の系統性と教科横断的な視点を押さえた年間指導計画の作成と評価・改善を図る。 カリキュラムマネジメント委員会を推進する。(年間3回)	・「12年間の系統性や学習指導要領等の内容に沿って見直した年間指導計画が作成できた」と答える教職員 100%	カリキュラム・マネジメント委員会 体育課 図書表現課 各学部
	(ウ) 心理的安全性の確保と月45時間以内を目指した働き方改革の推進	教職員一人一人が相手を思いやり、働き方改革の意識をもって、業務や会議の能率化と精選を進める。 夢の実現委員会を開催する。(年間3回)	・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90%	夢の実現委員会 各学部

様式第1号

イ 安全・安心	(ア) 児童生徒が安全に安心して生活できる教育環境の整備及び事故等の未然防止への行動力と有事への対応力の向上	定期的な校内安全点検と日々の美化清掃活動、災害時における危険個所の迅速な点検と整備をする。	・管理責任者による安全点検と美化活動の実施、危険個所の迅速な整備 100%	防災教育課 生徒指導課 各学部 事務部
		保健、医療的ケア、給食、体育等のヒヤリハットを自分事に捉えるよう呼びかけ、適切な対応を促し、迅速な改善策を策定する。	・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生0件 ・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%	保健給食課 体育課 教務情報課 各学部
		危機管理マニュアルの理解推進と各訓練後の見直しを実施し、情報の共有を図る。	・マニュアルを教職員が理解し、「有事の際の動きが分かって行動できる」と答える教職員 100%	防災教育課 生徒指導課 保健給食課 危機管理委員会
		情報管理、交通安全、会計処理等に関する研修を実施し、児童生徒、保護者、地域の信頼に応える。	・不祥事根絶。情報機器紛失0件。個人情報紛失0件。交通加害事故0件。不適正会計処理0件。	教務情報課 企画会 事務部 交通安全委員会
	(イ) 教職員、児童生徒の人権意識の向上と、他者も自分も大切に作る心の醸成	人権教育に関する全体研修会と学部会を実施する。 月ごとの人権目標や振り返りシートを活用し、人権感覚の向上を図る。	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員 100%	生徒指導課 各学部 いじめ対策委員会
		発達段階に応じた人権教育、道徳教育を各授業や朝、帰りの会等で行う。	・「児童生徒が、あいさつやありがとうが自分から言えた」と答える教職員 100%	生徒指導課 各学部
(イ) 地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信	(ア) よりよく生きる人を目指した学校と家庭、地域・関係機関等との協働強化	個別の教育支援計画、個別の指導計画等を保護者や関係機関と面談等で共有し、有効に活用する。	・「すまいるファイルを保護者や関係機関と共有し、面談や進路指導に活かせた」と答える教員 100%	教務情報課 地域連携課 キャリア教育課
		保護者や関係機関からの相談や要望に対して丁寧に対応し、それぞれの役割を明確にして、連携する。	・ニーズに応じた関係者会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90%	地域連携課 キャリア教育課 各学部
		チーム学校の機能を活用し、在籍児童生徒の支援体制を充実させる。	・校内の専門家看護師、SCや校外の専門家(PT、OT、学校医、医ケア指導医相談員等)の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90%	地域連携課 キャリア教育課 保健給食課 自立活動課
		日々の学校公開やHP等を利用し、児童生徒の学習の様子を発信する。	・「学校公開やHP等で学校の様子が理解できた」と答える保護者 100%	教務情報課
		地域資源(人・もの・こと)を活用する「ふれあい活動」を年間指導計画に位置付けて実践し、成果と課題を明確にする。 地域の施設での作品展や作業製品展示・販売会を開催する。	・「ふれあい活動を実施し、地域資源(人・もの・こと)を利用できた」と答える教職員 100% ・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員・外部評価 100%	地域連携課 カリキュラム・マネジメント委員会 図書表現課 各学部
	学校間交流、交流圏交流の相手校と連携を図り、相互に有効な交流及び共同学習を実施する。	・実施後アンケートで「相互に有効な交流活動であった」と答える本校、相手校の評価 100%	地域連携課 各学部	